

第18回ゲノム・オミックス連携推進セミナー 「縄文人ゲノム解読への道のり」

太田 博樹 先生

北里大学 医学部 解剖学研究室 准教授

【日時】 2月21日（木） 15：00～16：30

【場所】 東北メディカル・メガバンク棟 3階 大会議室

【セミナー要旨】

古い生物遺物からDNAを取り出し遺伝情報を分析する研究は、1980年代に始まった。この「古代DNA分析」という分野は、PCR法の発明、自動シーケンサによるサンガー法の汎用化、次世代シーケンサの誕生といった技術的な画期に伴い発展し、現在は「古代ゲノム学」としてヨーロッパを中心に独自の展開を示している。生きている生物の組織や血液から得られるDNAと違い、古代DNAは自然条件下で化学修飾を受け、断片化し、分子数の減少という“三重苦”を背負っている。本セミナーでは、演者が1990年代に分析した弥生人骨のDNA分析から、昨年*Science*誌に発表した縄文人骨の全ゲノム・ドラフト配列決定の達成まで、国内外の研究動向を紹介し、古代ゲノム解析により明らかになってきた東ユーラシア人の集団史について概説する。

連絡先 : seminar@gpc.megabank.tohoku.ac.jp

(東北メディカル・メガバンク機構 ゲノムプラットフォーム連携センター)